

子宮頸がん検診を受診しておられないお母様方、大人の女性の皆様へ  
予防対策として、子宮頸がん検診、ワクチンとは別の第1歩

## HPV（ヒトパピローマウイルス）検査を提案します。

子宮頸がんは乳がんと共に、子育て世代の20～40才代の女性に比較的多い、誰もがかかりうるインパクトの強い女性特有のがんです。日本では、年間に1万人を超える発生があり、6千人以上の死亡者数となっております。有効な発症予防対策が求められているゆえんです。

対策の一つの重要な柱ががん検診です。様々な施策が取られていますが、日本では受診率が低く、十分な抑止効果は上がっていません。

また、「子宮頸がん予防ワクチン」という名前までつけられてスタートした HPV ワクチンですが、接種後の有害事象が相次ぎ報道され、定期接種化後わずか2ヶ月余りで積極的勧奨を取りやめ、現在はほぼ停止状態です。

仮にワクチンが間違いなく有効であるとしても、効果があるのは HPV16 型、18 型に起因するものだけで、がん検診の必要性は変わりません。ただ、この2つの型は悪性化への進行が比較的早く、若い年代の頸がんの主要原因になっており、期待されていたのも確かです。しかし、今はすぐにワクチンしましょうという風にならないのも致し方ないところかと思えます。

そこで、子宮頸がん対策として、**自己採取による HPV 検査**で頸がんリスクをチェックすることを提案します。少し踏み出しやすい「別の一步」の提案です。

HPV は主に性交渉によって子宮頸部に感染するウイルスで、100を超える種類があり、そのうち10数種類ががん発症の原因になると言われています。とはいえ、感染した人の大部分は自己の免疫力でウイルスを排除し、持続感染し悪性化するのはごく一部です。しかしそれでも年間1万人。持続感染していなければがん発症のリスクはほぼゼロです。

検査で感染予防ができるわけではありませんが、**そこにがん発生リスクの高いウイルスがいるかどうかわかります**。自己採取と医師による採取とで精度にほぼ変わりはないそうです。

**陰性**であればそこ数年は安心です。5年毎くらいに検査を繰り返していけば、更に安心でしょう。**陽性**ならば全員ががんになるわけではありませんが、その時点で婦人科を受診していただき、精査、経過観察を受けていただきます。 がんに進行する前に治療を受けるチャンスが広がります。

すでに諸外国でこの方式（HPV 検査→細胞診）が取り入れられてきています。

当クリニックでは子育て世代のお忙しいお母様方がお子様の受診のついでに気楽に検査を受けられるように検査キットを用意しました。検査は自由診療となりますのでカルテを作ってください。費用は検査及び結果説明まで含めて5,400円（税込）です。検査陽性の場合の婦人科紹介については別途保険診療で対処します。ご希望の方はどうぞスタッフにお声掛けください。

医) おおつか小児科アレルギー科クリニック

## HPV（ヒトパピローマウイルス）検査問診票

カルテ番号（                    ）

氏 名（                    ） 年 齢（        才）

子宮頸がん検診既往（無、有                    回）

HPV 検査既往（無、有                    回）

HPV ワクチン接種既往（無、有                    回）

HPV ワクチン副反応（無、有                    ）

他のワクチンによる副反応歴（無、有                    ）

